

攻撃者と被攻撃者を援助するための攻撃行動随伴性

Behavioral Contingencies of Human Aggressive Behaviors for Helping Attackers and Attacked Ones

○佐久間崇

Takashi Sakuma

常磐大学大学院人間科学研究科修士課程

Graduate school of Tokiwa University

森山哲美

Tetsumi Moriyama

常磐大学

Tokiwa University

Key words: human aggressive behaviors, behavioral contingencies, helping attackers and attacked ones

序論

我々の日常生活は、我々が思っているよりも安全ではないのかもしれない。テレビをつけてみれば、傷害事件、暴行事件、少年非行、殺人事件、いじめ、テロ、戦争など、我々の日常を脅かすニュースが後を絶たない。また、我々自身も他者に同様の脅かしを行っているのではないだろうか。気に障るようなことを言われたら怒鳴り、躰の一環と称して子を叩く、意見が合わないと口論し、口論が発展して殴り合いになるなど、いつもとは言わないまでも、これらの事象は、広義には「攻撃行動」と言えるだろう。そして、可能であれば避けたい、低減したい事象である。そのようにするには、攻撃行動にかかわる要因を明らかにして、それらを操作する必要がある。すなわち、攻撃行動の制御には、攻撃行動にかかわる要因を明らかにする必要がある。

従来の攻撃行動研究

攻撃行動に関わる様々な要因を明らかにするために、様々な分野から様々な説明がされてきた。それらは、動物行動学、精神分析学、認知心理学、生理学などである。これらの分野から得られた知見は重要であるが、いずれも攻撃行動の一側面しかとらえておらず、攻撃行動全般の制御は難しいと考える。そこで、攻撃行動に関わる事象を統一的に説明する視点と枠組みが必要であると考えられる。

攻撃行動を説明する行動分析学の視点と枠組み

筆者らは、攻撃行動を攻撃にかかわる環境事象における攻撃者と被攻撃者のそれぞれの行動の間のダイナミックな相互作用として定義する。これは、行動分析学の言語行動の視点を拡張したものであり、攻撃者と被攻撃者のそれぞれの行動随伴性を枠組みとしている。それを図示したものが図1である。

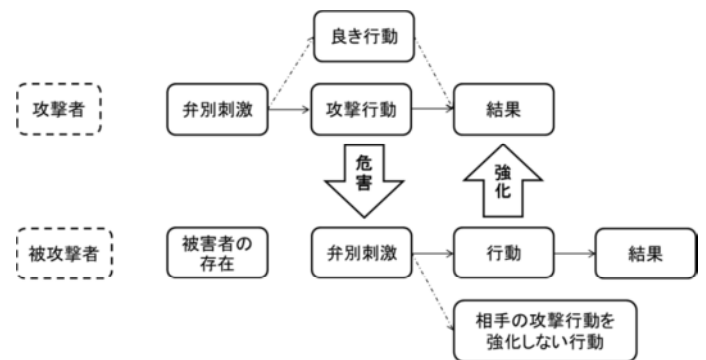


図1 攻撃者と被攻撃者の行動随伴性の相互作用としての攻撃行動

この図には、攻撃行動を攻撃者と被攻撃者との相互作用によって生起する行動ととらえている。この図に従えば、攻撃行動の制御について対人援助的視点に基づく対策が可能である。たとえば、攻撃者に対する攻撃抑制の教育だけではなく、被攻撃者に対する攻撃防止の指導も提案できる。攻撃者に対する教育には、攻撃行動に随伴する強化子の獲得を非攻撃的行動によって可能にするプログラムを盛り込む。一方、被攻撃者には攻撃行動に対する対処方法を学習させる教育を実施する。

上記の教育は、攻撃が世間で言っているような悪ととらえた場合の教育である。しかし、個体が環境に適応する上で必要な攻撃もあるだろう。それは、攻撃者にとっても被攻撃者にとっても相互に強化的となるような攻撃行動である。具体的には、両者がたがいにさまざまな問題の解決に向けて討論して、問題の解決法を見つけるときのような討論形式における攻撃行動である。それは身体的な攻撃ではなく、話し合いの形式で行われる攻撃といえるものである。そのような討論によって問題の解決を見つけていくような教育が必要であろう。